

Aug 2014

Vol.2-10 No.19

【JISC】2014 年 ISS 研修会を開催

8月4日及び5日に、セーフスクール(ISS)研修会を開催しました。今年度は、多くの学校がISS活動を進めています。それほど前例が多くない状況のなか、各学校は、「どうやって進めていけばいいのか」「すでにいろいろなことをやっているうえに、何が必要なのか」といった不安を抱えています。また、JISC による個別の支援だけでなく、どのような学校がどのような活動をしているのか、どんな課題を抱いているのか、を共有することも個々の学校がそれぞれの実情に応じた活動を展開するにあたって参考になります。

そこで、より多くの学校そして関係者が参加できるよう、夏休み期間を利用し、西日本セッションと東日本セッションと2回に分けて研修会を開催しました。



まず、4日は、亀岡市のご協力により、西日本セッションを亀岡市役所市民ホールにて開催しました。亀岡市では、市内9保育

所・保育園と1小学校が ISS に取組んでいます。当日は全市的なイベントがあり、調整が大変だったにもかかわらず、多くの方が出席されました。加えて、大阪府松原市と滋賀県甲賀市からも教育委員会と SC ご担当者が出席され、合計で 40 人近くの方の参加がありました。

続く、5 日には、東日本セッションでした。豊島区とISS 認証校である朋有小学校のご協力により、朋有小学校において開催しました。当日は、豊島区内をはじめ、関東エリアで ISS 活動を進めている小学校、中学校、高等学校から 50 人を超える参加者がありました。中には午前中の学校行事を終えてから駆けつけてくださる方もおられ、日本における ISS 活動の広がりについて、今回講師として招聘したパク・ナムス先生も大きな期待を寄せておられました。



西日本、東日本セッションとも、午前の部では、まず、ISS
についてよくご存じない方には ISS について学んでいただ

き、すでにご存じの方には、再度 ISS の特徴を確認していただくために、JISC 白石から ISS の概要・進め方について説明をしました。続いて、ISS に取り組んでいる保育園み状況について簡単にご



午後からは、パク・ナムス先生から韓国における ISS 支援の経験をもとに ISS の概念をいかに学校の教育活動の中に組み込むか、各アクターはどうかかわることができるか、といったお話をいただきました。また、School Safe (学校の安全) と Safe School の概念の相違点についても地域や保護者との関係性などの視点から簡潔に説明くださいました。

パク先生によれば、韓国では、ISS 活動を進めるには教育委員会の理解、同意を得ることがとても大変だそうです。今回、参加者の中に教育委員会の方が多くおられ、また、ISS を進めている学校へ協力的であること、セーフコミュニティと連携していることでまちぐるみで安全な学校環境づくりを進めている点などは、韓国でも紹介し、取組みの参考にしてもらいたいとおっしゃっていました。

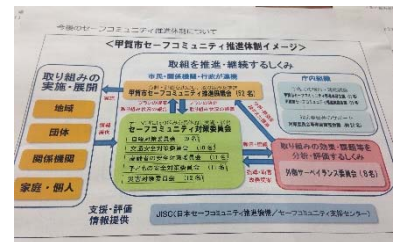
【郡山市・甲賀市】郡山市が甲賀市を視察

8月8日、現在、11月のSC活動開始に向けて準備を進めておられる郡山市のSCご担当が、甲賀市を訪問され、甲賀市のSCご担当者からこれまでの経緯や進め方などについてお話をお伺いしました。

その後、JISC と今後の進め方や 11 月の SC 関連イベント等についてお打合せしました。

午後からは、7月の全国 SC 研修会で、甲賀市のサーベイランス委員会の活動について事例が紹介されたことからサーベイランス委員会を視察されました。甲賀市のサーベイランス委員会の委員長は、消防署長です。救急搬送からみえる地域課題はもちろん、資料等をしっかりと読みこんで、委員それぞれの専門的な視点からのコメントを引き出されるなど、郡山市 SC ご担当者にとっては、今後サーベイランス委員会の人選を進めるにあたって参考になったとのことでした。

サーベイランス委員会の後には、テーマ別対策委員会
正副委員長会議が開催されました。各対策委員会は、5月



の専門家による視察でいただいた質問や助言等を受けて、どのように取組みを展開していくかを協議した結果を報告しました。

これまでは、専門家による視察の後は、時間をおいてから対策委員会を開催する場合が多かったようです。ですが、甲賀市のように、時間をあまりおかずに対策委員会を開催したり、対策委員会間の課題や方向性に関する情報を共有する機会を設けることは、今後、効率的・効果的に取組みを進めるにあたってプラスに働くと感じました。

【秩父市】合同対策委員会・サーベイランス委員会実務部会を開催

8月11日、12日と秩父市において、合同対策委員会を開催しました。5月に甲賀市、十和田市とともに海外の専門家を招へいし、取り組みの進捗状況を確認いただき、講評いただいた内容について、JISCから1時間ほどの時間をかけて解説させていただきました。5月以降、すでに会議を開催されている対策委員会もありましたが、このような形で専門家からの助言を共通認識することで、対策委員会同士の連携をはじめ、今後の取り組みが進めやすくなるのではないのでしょうか。

その後、
外傷サー
ベイランス
委員会事
務担当者



会議を開催しました。今後、サーベイランス委員会をより機能させていくために、外傷等に関するデータ収集を担う警察、消防、市立病院、市担当課などからなる「実務チーム」と研究者等からなる「アドバイザーチーム」とすることで、それぞれの役割を明確化し、動きやすくすることを目的としています。



今後は、実務チームが、対策委員会の取組みに必要なデータ集計・分析などを行います。アドバイザーで

ある研究者は、毎回会議に出席しなくても必要に応じてメールや電話等でアドバイス等を行うことが可能になることで、関係者の物理的な負荷を減らし、機能がアップすることを期待しています。

【ISS】秩父市 ISS 実践校で研修会

8月11日、12日に、ISSに取り組む学校(2小学校、1中学校)を訪問しました。

まず、8月11日には、秩父第二中学校、12日には南小学校と花の木小学校を訪問し、取り組みの進捗状況をご報

告いただきました。5月に韓国、台湾の先生方にいただいたアドバイスも取り入れつつ進めている活動の状況について、ご報告いただきました。それらの報告をうけて、JISCからは、収集したデータから設定された課題や対策内容について質問するとともに、ご用意いただいたPPTファイルにそって具体的なアドバイスを差し上げました。いずれも、限られた時間のなかで、駆け足での訪問となりましたが、少しでもISSの推進に役立つことを願っています。

【厚木市】対策委員会ワークショップ開催

8月18日午後、厚木市において新たに設置された防災対策委員会でワークショップを行い、JISCが引き続きファシリテータを務めました。今回は、委員のみなさんの、防災に関する活動において、あるいは日々の生活において感じて



いる課題(主観的課題)を共有しました。今回は、前回同様に3グループにわかれ、ハザードマップや想定する災害被害などのデータをもとに、客観的な側面から課題を議論し、最後にそれぞれのグループでまとめた内容を報告しあいました。

話し合いのなかでは、住民向けのパンフレットに関して、「富士山の噴火については、(火山灰が30cm積るといふ情報はあがるが、)それによってどのような被害が想定されるかが記載されていない」といった具体的な意見も多くいただきました。

本対策委員会は、毎回、活発に意見を出し合い、会話ははずんでおり、とても和やかな雰囲気の中でワークショップが進んでいます。雰囲気もワークショップを円滑に運営に大きく影響します。

【厚木市】対策委員会ワークショップ開催

8月18日午後、厚木市睦合東中学校において、2つのワークショップを開始しました。まず、生徒代表によるワークショップを行いました。おおよそ6人ずつのグループに分かれ、厚木市ISSご担当が用意したけが等に関するデータ集計をもとに、課題を考えました。前回のワークショップでは、それぞれの経験をもとに課題を話し合ったのに比べ、今回はデータを読み解くという点でやや難しそうでした。しかし、「保健室で収集しているケガのデータで柔道によるけががゼロなのは、部室に救急箱があるし、顧問の先生が手当の方法を知っているので、保健室に行かなくてもすむからだとおもう」といったデータの裏にある事実に関する情報を引き出すことができました。安全課題を検討するにあたっては、外傷数のような客観的な情報も必

要ですが、このような質的な情報も合わせて検討することが、現状を正確に把握するためには重要です。



生徒は、「難しい…」など頭を抱えながらも、いくつかの付箋紙にコメントを書いていきました。

続いて、出てきた分析をいくつかのグループに分けてまとめ、最後にグループごとに報告しておりました。報告のなかには、大人にはないような鋭い視点からの分析もみられました。中学生になると、主体者としてかかわる能力が小学生よりも高くなることから、課題抽出や対策の検討についても、大人とは異なる視点からの取組みが期待できそうです。

続いて、夕刻からは、大人たちによるワークショップ(第2回)でした。前回同様、忙しい時間にもかかわらず、地域住民代表の方、保護者代表の方、睦合東中学校の先生、当中学校に進学する小学校の先生など幅広い方が参加されました。こちらも、6人を目安にグループになり、先に行われた子供たちのワークショップと同じデータをもとに同じ進め方で行いました。今度は、大人の視点から議論していきました。

最近では LINE を使う子どもが増えていることで、子ども間の関係性などが見えにくくなっていることが小学生とは異なる課題として多くでていました。子どもが1日に何百回も LINE で友達とやり取りしており、終わるきっかけがつかめない状況を好ましくないとは思いながらも、具体的にどう問題に発展していくのか、どう解決できるのか、など見えない点も多く、不安を抱えている点などが共有されました。こちらも、毎回活発なワークショップで、各テーブルで参加者の積極的な参加がみられます。

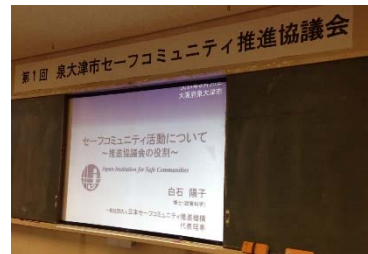


【泉大津市】第一回推進協議会開催

8月20日、泉大津市において第一回セーフコミュニティ推進協議会が開催されました。

初めての推進協議会としての顔合わせということもあり、まずは市長が推進協議長としてのあいさつのなかで SC 導入の意図を「SCを通して、まちづくりの基盤となる協働体制と体系的な取り組みの仕組みづくりを目指している」とご説明されました。

続いて、事務局から SC の簡単な概要と今後の進め方についてご説明がありました。その内容を受けて、JISC 白石から SC の概要と推進協



議会に求められる役割についてご説明しました。暑い日の午後ということもあり、涼しい室内で眠くなりそうなのですが、皆さん熱心に聞いておられました。



その後、の質疑応答では、最初の会議にもかかわらず、活発に質問や意見などがだされ、委員のみなさんの関心の高さが感じられました。

【鹿児島市】推進協議会を開催

8月21日、鹿児島市で SC 推進協議会が開催されました。当日は、10月に予定している専門家を招へいしての視察の際に報告する内容について、各対策委員会事務局から説明がありました。



鹿児島市の推進協議会は、各分野からの代表30数人からなります。毎回、ほぼ全員が出席され、各種報告

や協議について、積極的にご発言されます。なかには、開始時間よりずっと早く来られ、配布資料に目を通し、事務局に個別に質問されている委員も見られました。また、会議中も、報告に対して、大学の研究者や県の代表、弁護士の委員からご意見や感想が次々とだされました。最後には、「報告資料が非常にわかりやすくなってきて、どのように住民と行政と一緒に活動を進めているのかがよくわかった。」という感想をいただき、各対策委員会の事務局の努力が報われたようでした。また、各 PPT ファイルをチェックし、アドバイスしてきた JISC としても、委員からいただいたコメントに、ほっとしました。



【ISS】亀岡市曾我部小学校

8月24日、亀岡市曾我部小学校において、外傷データの取りまとめと課題に対する対策についてご説明いただきました。11月に予定しているISS専門家の招へいの際に報告される際に使うために使う予定のPPTファイルを見ながら、地域診断の方向性、取り組みとの論理的なつながり、指標に沿った取り組みの見せ方などをアドバイスしました。報告用のファイルに沿って取り組み状況を確認することで、曾我部小学校のISSの全体像を把握し、取り組みの背景や内容、方向性などについて体系的に確認することができました。

また、先生方からは、データなど絶対的な根拠はないとしながらも子どもが確実に落ちてきてきた、学力が上がってきている、といった変化がみられるとも教えていただきました。ISSご担当の先生からは、「私たち教員は、日頃から経験などをもとに課題は認識できているが、ISSのようにデータを収集・分析して客観的に課題を出すという方法にそれほど慣れていないとおもいます。なので、最初はISSのやり方に違和感をもつのかもしれない。今は、まだ収集したデータをどう分析すればいいのかなどが見えず、時間がかかっていますが、情報収集と分析の仕組みさえ構築され、さっと分析できるようになれば、客観的にも課題を共有できるので、データを活用すること自体はそれほど苦にはならないと思う。」という前向きなコメントをいただきました。おそらくどの学校も同様の状況だと思いますので、JISCとしてもその仕組みづくりについて検討していきたいとおもいます。

【郡山市】JISC、市長・副市長と面談

8月27日、この11月にSCに正式に着手を予定し、それに合わせてシンポジウムの開催するために準備をすすめている郡山市にお伺いし、市長及び副市長と面談しました。



市長は、すでに他都市の取り組みなどについても情報を得られており、それを踏まえて郡山市においてどのような展開が可能か、その実現可能性などについてJISCに確認されました。それにこたえる形をとりながら、JISCからは、SCの理念や進め方について、他市の事例を加えながらお伝えしました。

福島市は、2020年までの認証と比較的に時間的な余裕をもった目標を立てておられるとのことで、じっくりと地域及び庁舎内での協働体制を構築していただきたいとおもっています。

その後、ご担当者と今後の進め方についてお打合せをしました。11月に正式に活動開始ということで、JISCからは、まずはしっかりと「地域の安全診断」を進めておくようにお伝えしました。どんな対策委員会を設置したらよいのかを協議するためには、ある程度の情報を収集すれば見えてきます。ですが、対策委員会が設置され、具体的な課題を協議する段階では、さらに詳細かつ具体的な状況を見ていく必要があり、そのための情報・データが求められます。また、ワークショップを開催する際にも、データがあれば、進めやすくなります。日本の場合は、SCに活用できるデータが様々な組織や部課に散在していることから、それらを収集するには時間と労力を必要としますので、本格的にSC活動が始まる前に取組んでおくことが効率的に活動を進めるポイントとなることをお伝えしました。

【十和田市】SC推進懇談会・合同対策部会を開催

8月28日、十和田市においてSC推進懇談会、合同対策部会が開催されました。



推進懇談会においては、SC事務局から5月にSC専門家を招へいた際に、各報告に対していただいたアドバイスやコメントに対して、どのように対応しているかを報告しました。続いて、今後の予定についてご説明されました。最後に、JISC白石から、今後の進め方についてコメントが求められましたので、推進懇談会のメンバーは、地域のキーパーソンであるので、そのネットワークを駆使して、SCの展開にお力添えをいただきたい旨をお伝えしました。

その後、夕刻には、合同対策部会が開催されました。6月の会議の際に、JISCから5月の招へい者による視察で出されたアドバイスについて解説をおこないましたが、今回は、その時のPPTを使って具体的にどの部分に、どんな情報を盛り込んだらよいのか、を説明しました。直前の打ち合わせのなかで出てきた案であったため、即席の資料を使ってのご説明となりましたが、再認証申請に向けて求められた「これまで5年間の振り返り」や「今後5年間のビジョン」とはどのようなことを示せばよいのか、を自殺対策部会の報告資料を使って視覚的に紹介しました。

平日の夕刻にもかかわらず、多くの方が出席されており、また、会議の最後には、残って活動の状況を報告くださる方もおられ、十和田市における市民の関心・熱意の高さを改めて感じました。

【発行】一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構
※問い合わせは下記ヘッダーの連絡先まで